市報さが SAGA
No.289
平成29年
10|1
OCTOBER
2017

本番間近

～諸富町・三重の獅子舞で「めずり」を務める少年たち～

祭りが育むもの

太鼓や笛の囃子が聞こえ始めると、秋が来たなと心躍る。

五穀豊穣に感謝する祭りの季節だ。

諸富町新北神社の秋の大祭にあわせて奉納される「三重の獅子舞」は、約600年前、越後国（現在の新潟県）から肥前蓮池に伝えられ、氏神である新北神社に奉納されたのが始まりと言われているが、明らかではない。

現在は佐賀県重要無形民俗文化財の指定を受けており、祭り当日は大勢の観客でにぎわう。

昔は三重地区の青年、壮年だけで行っていたが、後継者不足で単独での開催が難しくなった。「長い歴史を持つ祭りを無くしてはならない」と、昭和60年ごろから、新北神社の氏子地区の青年、壮年で実施している。

三重の獅子舞の大きな特徴は、曲芸的な所作にある。獅子使い（獅子の頭を持つ役目）を肩車する「2段継ぎ」、肩車している者をさらに肩車で持ち上げる「3段継ぎ」だ。

雄と雌の獅子が躍動し、一気に大きくなる様は圧巻だ。

この勇壮な舞は全国的に見ても大変珍しく、文化的価値が高いとされている。

この祭りに欠かせない役目がある。それが「めずり」だ。遊びつかれて眠った獅子を起こしたり、獅子の怒りを鎮め、あやす役目だ。

「めずり」を務めることができるのは、小学校高学年の男子と決められている。その年の担当地区から選ばれ、8月下旬から、祭り直前の10月中旬まで練習が行われる。

今年の祭りを取り仕切る「お下り」地区・浮盃の公民館では「めずり」の練習が始まっていた。

写真左上より
正林輝大くん、実松弘将くん、
田中青空くん、内田匠くん

大役を務めることになったのは、田中青空くん、実松弘将くん、内田匠くん、正林輝大くんの4人。幼い頃から祭りを見てきた彼らは、大きな獅子を操るように立つ「めずり」の姿を「かっこいい。いつかやってみたい。」と思っていたそうだ。

この「めずり」、実はやりたいと思って必ずできるものでは決してない。自分の住む地区が祭りの当番となった年に、ちょうど小学校高学年でなくてはならないからだ。彼らは一生に一度の貴重な経験を得たことになる。

練習では「三重の獅子舞操作員会」の指導を受けながら、独特の所作を繰り返し行い、体に覚えさせていく。

「下を向くな。獅子をにらんで目ばそらすな。」「しっかり声ば出せ。棒は顔の前まで勢いよく回さんば！」

指導の声にも熱がこもる。

指導者のひとり、野中大将さんは、24年前に「めずり」を務めた。

「本番は緊張した。練習は楽ではなかったけど、いい経験だった。伝統ある祭りなので、子どもたちには誇りを持って舞って欲しい。」と話す。

指導にあたる
野中大将さん

4人の少年が懸命に練習する姿を、地区の役員や保護者、操作員など20人以上の大人が見守る。時に厳しく、真剣に助言し、うまく出来た時には拍手でねぎらう。

少年たちはこの祭りで「めずり」という大役を務めることで、きっと大きく成長するだろう。

今年の奉納が間近に迫った。当日は緑と赤の衣装に身を包み、凛とした表情の少年たちに会えることを楽しみにしている。

平成29年 新北神社 秋の大祭

■日　程　10月15日(日)
■お下り地区　浮盃
■お旅所　東寺井、西寺井、上下

問い合わせ
新北神社　☎47・4848